

第8回(平成19年度)IODP部会・執行部会 議事録(案)

日時: 2007年2月15日(金) 14:30~17:30
場所: JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者(敬称略)

執行部: 川幡穂高(東京大学) 阿波根直一(北海道大学) 安間了(筑波大学) 北村晃寿(静岡大学)
坂本竜彦(海洋研究開発機構) 高澤栄一(新潟大学) 日野亮太(東北大学)
松本剛(琉球大学) 山崎俊嗣(産業技術総合研究所) 山本啓之(海洋研究開発機構)

オブザーバー: 北里洋

海洋研究開発機構 国際課: 笹山岳大
海洋研究開発機構 CDEX: 川村善久

事務局: 中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

欠席者(敬称略)

執行部: 荒井晃作(産業技術総合研究所)
池原実(高知大学海洋コア総合研究センター) 井上麻夕里(東京大学海洋研究所)
小平秀一(海洋研究開発機構) 山田泰広(京都大学)

議事次第

報告事項

- IODP 航海スケジュール状況報告 [阿波根部会長補佐]
- Canterbury, Wilkes Land 乗船者応募状況 [事務局] [資料 1]
- 連合大会「地球掘削科学セッション」について [事務局] [資料 2]
- IODP steering committee member nomination 報告 [川幡部会長] [資料 3]
- J-DESC コアスクール コア記載エキスパートコース準備状況 [坂本委員] [資料 4-1~5]
- 専門部会・WG 活動報告 [事務局, 坂本委員]
 - 科学計測専門部会 [坂本委員] [資料 5-1(1)]
 - 情報システム WG [坂本委員/兼 情報システム共同 WG 長] [資料 5-1(2), (3)]
 - 古生物 WG [事務局] [資料 5-1(4)]
 - 事前調査検討専門部会 [事務局] [資料 5-2]
 - 技術開発推進専門部会 [事務局] [資料 5-3]
- 広報活動報告 [事務局]
 - J-DESC Newsletter Vol.2 準備状況 [資料 6-1]
 - IODP Drills, 大学&科学館キャンペーン準備状況 [資料 6-2]
 - 「ちきゅう」J-DESC 特別見学, 一般公開報告 [資料 13]
 - J-DESC ホームページ リニューアル案 [資料 6-3]

審議事項

- 地球掘削科学分野 人材リスト作成について [川幡部会長, 事務局] [資料 7]
- 新タスク委員会の設置について
 - プロポーザル評価育成 [川幡部会長]
 - 成果収集 [阿波根部会長補佐]
- 東シナ海における日韓プロポーザル提案について [川幡部会長, 松本委員]
- 「戦略とは何か(2)」日独若手交流について [資料 8]
- PMO・SPC 会議について [阿波根部会長補佐, 川幡部会長] [資料 9-1, 9-2]
- J-DESC2008 年定例総会について [事務局]
 - 議事次第(案) [資料 10-1]
 - 運営方針(議事進行)
 - J-DESC 来年度予算(案) [資料 10-2]
- その他
 - Future IODP planning meeting-Summary to date [資料 11]
 - 成果公表の助成について [資料 12]
 - SPC Alternate 委員選出報告 [資料 13]
 - 高知コアセンター研究支援に関するアンケート開始について [事務局]
 - 賛助会員勧誘状況報告 [事務局]
 - 次回開催日程について

第8回（平成19年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

【報告事項】

1. IODP 航海スケジュール状況報告〔阿波根直一〕

標記の件について阿波根部会長補佐より報告がなされた

- ・ USIO の JR の航海が遅れる。
- ・ PEAT は延期で、Science Party は残るが、Bering の Science Party は白紙（Invitation はキャンセル）。
- ・ Bering Sea は SPC で Re-ranking されることになる。
- ・ New Jersey は入札が終わり、掘削会社の候補が決まった段階。PMO には詳細情報はない。SPC では ESO から少し話がある可能性がある。

2. Canterbury, Wilkes Land 乗船者応募状況〔事務局〕

資料1に基づき、標記の件について事務局より説明がなされた。

- ・ スペルチェックをしっかりとするように。

3. 連合大会「地球掘削科学セッション」について〔事務局〕

資料2に基づき、標記の件について事務局、川幡部会長より報告がなされた。

- ・ 27日（火）にセッションを開催する予定で調整中。
- ・ J-DESC 情報交換会（200人規模）を地球掘削科学セッションと同日の夕方から開催する方向で調整中。
- ・ JPGU 開催初日から J-DESC 情報交換会用のフライヤーを配布。

4. IODP steering committee member nomination 報告〔川幡部会長〕

標記の件について、川幡部会長より説明がなされた。

- ・ 次の ISP を策定するトップクラスの人を10人ほど推薦した。
- ・ 実際に執筆などを行う人はもう少し年齢層の低い人になるだろう。

5. J-DESC コアスクール コア記載エキスパートコース準備状況

資料4-3に基づき、坂本委員より標記の件について説明がなされた。

- ・ 現在12人以上の応募がある。
- ・ 消耗品については、J-DESC から出費してそろえ、講師旅費も J-DESC から出費。
- ・ 高知コアセンターにある Legacy コア（Bering、赤道太平洋、Canterbury などに近い岩相のコア）を使って実習を行う予定。
- ・ IODP に対してもサンプルリクエストを行い、資料を得ることも考えている。
- ・ 今後乗船したいと考えている人も対象としている。
- ・ 会員機関のみに旅費の援助を行う。

6. 専門部会・WG 活動報告

各専門部会・WG の活動報告がなされた。

● SASEC

川幡部会長より報告がなされた。

- ・ 次回 SPC で OTF に送られた提案も含めて、より高い科学目標が達成できるようなものをスケジ

ジュール化するよう、再度ランキングするという SPC の考えに賛成した。

- ・ IODP Implementation plan 2008-2013 の原稿を改訂することとなった。

● 科学計測専門部会

資料 5-1(1)に基づき、坂本委員より報告がなされた。

- ・ 科学計測部会としてはちきゅうの科学支援員（マリン・ワーク・ジャパン）のスキルアップに協力するとの提言を行った。
- ・ 2月で STP 委員を退任する鈴木氏の後任として岩井氏が承認された。
- ・ 情報システム WG が今年度で任務終了となった。

-情報システム WG

引き続き資料 5-1(2)、(3)に基づき、坂本委員より報告がなされた。

- ・ VCD のスキームを作ったことが主な成果。
- ・ WG の 4 年間の任期を満了し、任務終了となったことが合意された。
- ・ 今後、船上データベースのメンテナンスや、データマネジメントシステムをどうしていくかなどについて議論は残っているが、これについては、科学計測部会に担当者を置き、必要が出たら WG を立ち上げる。
- ・ J-CORES に習熟した IT スペシャリストをちきゅうに乗せるのが望ましいとの提言を行った。
- ・ 難波氏の所属を学部まで確認する（事務局）。

-古生物 WG

資料 5-1(4)に基づき、事務局より報告がなされた。

- ・ 今年度から活動を開始し、第 1 回目の会議が 2 月 6 日に開催された。
- ・ 会議では、これまでの Paleontology Coordination Group (PCG) meeting や Micropaleontology Reference Center (MRC) meeting の報告、目的意識（STP 対応や国内の古生物学的支援体制）の確認・共有などが行われた。
- ・ 執行部としては、古生物 WG が古生物学会との連携を持ちつつ活動していくことを求める。

● 事前調査検討専門部会

資料 5-2 に基づき、事務局より報告がなされた。

- ・ SSP の事後報告、今年度と来年度の海洋調査の予定、JAMSTEC/IFREE による構造探査について報告がなされた。
- ・ 今回のアンケートの結果、早急に事前調査を必要とするプロポーザルは無いという結論に至ったが、今後は、通年でのアンケートの実施と更なる周知を検討することが合意された。
- ・ SSP 委員の人材確保について、産業界からの更なる委員の確保、代理印の事前確保の必要性が示唆された。

● 技術開発推進専門部会

資料 5-3 に基づき、事務局より報告がなされた。

- ・ EDP の報告と、日本からの ED Proposal の提出（4/15 締切）について議論がなされた。
- ・ 今回で退任する委員の後任を選出しないことで委員数が削減目標である 5 人となる。
- ・ 木下部会長より南海掘削についての報告がなされた。

- ・ 今年度で木下部会長が退任し、佐野委員が次期部会長として就任する。

7. 広報活動報告

資料 6-1、6-2、6-3、13 に基づき、事務局より標記の件について報告がなされた。

● J-DESC Newsletter Vol.2 準備状況

- ・ 3/18 納品に向けて準備中。
- ・ 平成 20 年 4 月 1 日発行とする。
- ・ 1 つの原稿を除いてはすべて入稿済み、まもなく校正刷りが挙がってくる。
- ・ Bering Sea については、航海が白紙に戻されたこともあり、302ACEX の成果の報告という形で執筆してもらおう（onshore party に参加した坂本委員に依頼）。
- ・ 入稿済み原稿の誤字・脱字などの確認をもう一度行う。
- ・ Bering Sea については、もう少しあとで記事にする。

● IODP Drills、大学&科学館キャンペーン準備状況

- ・ 懇親会向けに 2 万円を J-DESC から支援することが承認された。
- ・ シンポジウム開催費として支出。

● J-DESC ホームページ リニューアル案

- ・ 事務局にてデザインを立案した。
- ・ 来年度 4 月中の移行を目指して作業中。
- ・ QUICK LINK に General な情報として“会員への利益の還元”のボタンを入れる（関連ワークショップ/シンポジウムの下）。
- ・ このボタンをクリックすると、コアスクール、情報交換会などの項目が出る。
- ・ ICDP のボタンをトップページに設ける。

審議事項

8. 地球掘削科学分野 人材リスト作成について

資料 7 に基づき、標記の件について川幡部会長より説明がなされた。

- ・ 次期 ISP の策定のため、地球掘削科学分野の人材リストの作成を進める。

9. 新タスク委員会の設置について

標記の件について川幡部会長、事務局より説明がなされた。

- ・ プロポーザル評価育成
次回以降議論を行う。

10. 東シナ海における日韓プロポーザル提案について

標記の件について川幡部会長より説明がなされた。

● 日韓プロポーザルについて

- ・ 3 月に J-DESC の費用で松本委員が韓国に赴き、検討を行う。25 日に出発。どの機関の人がどの分野の研究を行っているかを把握する。
- ・ 訪問先は KIGAM など。
- ・ 地球物理を中心的なテーマとするのが望ましい。テクトニクスに加え、周辺分野（Paleoenvironment や Igneous など）を加えた形で韓国側に提案をする。
- ・ Deep Biosphere は沖縄トラフですすであるので難しい。
- ・ 日韓シンポジウムについても松本委員が訪問するときに相談する。

● 日韓シンポジウムについて

- ・ 日韓シンポジウムの担当は松本委員、高澤委員、荒井委員、朴氏。
- ・ 日本地質学会@秋田（9月20～23日）でのシンポジウムとして、21日開催で検討・調整を行う。
- ・ ある程度日本から招待したいが、お金の話は Pending。

11. 「戦略とは何か（3）」国際案件について

● 日独若手交流について

資料8に基づき、標記の件について北里氏、川幡部会長より説明がなされた。

- ・ ドイツと人材交流を持つことに関して前向きに検討を行うことが合意された。
- ・ 対象は3～4名の、日独の架け橋となることに自覚を持ったポスドクや助教など。
- ・ 期間は1ヶ月程度。費用は1人50万程度、計150万円。
- ・ JAMSTECやAESTOはfunding agencyではなく、DFGに相当する機関が日本にはないため、ドイツとまったく同じ資金の構造ではできない。
- ・ お金がどこから出るかという問題はあるものの、J-DESCがやるという姿勢を示すことによって資金の問題も何とかなる可能性がある。
- ・ 義務として、どのようなことを行ってきたかについて成果報告会で発表してもらう。
- ・ コンタクトパーソンの確立。指導教員などがある程度ドイツ側との交流があり、行く前にやってくることをつめる必要がある。
- ・ 出張経費を70%で出すのは可能か？
- ・ 1ヶ月で成果が出なかった場合はどうするか議論が必要（マシントラブルなど）。
- ・ プロジェクトで雇われているポスドクなどは行きづらいため、方向性がはっきりしているドクターコースの院生も視野に入れることを考慮する。その場合、前年度までに決定する必要がある。
- ・ 学振の基準に準じ、若手の年齢は37歳までとする。
- ・ 学問領域について、IODPへの“関連性”はその場に応じて考慮する。
- ・ 会員機関所属の者のみ応募可にする。
- ・ 2008年度中に少なくとも1人は送り出したい。この執行部の間に実現する（芽を出す）。
- ・ 日本側での受け入れについてはドイツ側からの希望になるが、原則的には会員機関に限定。
- ・ 滞在中の研究に関わる消耗品などの研究費は受け入れ機関が負担する。
- ・ ビザと入管について事務局でマニュアルを作る（送り出す方と受け入れする方）。
- ・ 日韓関係についても同じように交流を持つ方向で進める。

12. PMO・SPC会議について

資料9-1、9-2に基づき、標記の件について阿波根部会長補佐、川幡部会長より説明がなされた。

- ・ J-DESCとして他のPMOに何か報告したいことがあれば、川幡部会長、阿波根部会長補佐、または事務局まで連絡する。

13. J-DESC2008年定例総会について

資料10-1に基づき、標記の件について事務局より説明がなされた。

- 議事次第案
- 運営方針（議事進行）
 - ・ 4月6日（日）を予定

- ・ 陸上掘削部会新部会長の就任が承認される
- ・ 議事次第案について意見があれば、メールで行う
- ・ 場所について来年度は JAMSTEC 東京事務所。再来年度は東大本郷など、これは毎年ローテーションする。

● J-DESC 来年度予算（案）

- ・ 執行部会活動経費をもう少し現実的に計上する
- ・ 法人化検討調査費は 1 万円でよい
- ・ ニュースレターの経費を再検討する（特に英語版）
- ・ 執行部会時も総会の資料と同じ形式で出してほしい
- ・ 予算の承認はメールベースで行う

14. その他

● Future IODP planning meeting-Summary to date

標記の件について川幡部会長より説明がなされた

- ・ 500 人規模の大きな Meeting を 2009 年秋に行う予定
- ・ Big meeting の日本（横浜）開催で立候補中。このほか、テキサス、ブレーメンが立候補している。
- ・ 旅費が安いこと、ホテルが安いこと、食事が安いことをもとに選定される
- ・ もし一部でも日本でやることになれば、この執行部と次の執行部で協力して行う

● 成果発表の助成について

資料 12 に基づき、川幡部会長より説明がなされた後、各委員から意見が求められ、以下の議論がなされた。

山本：成果が出ないのは、お金の問題ではないような気がする。Sci. Drilling のハードルは？（内容によって Review が入るものもある。阿波根）（ニュースのようなもの。坂本）誰でも見て引用が可能のため、Sci. Drilling も対象とするべきである。

山崎：この目的が、今後論文を出させるものだとすれば、どの程度効果があるかには少々疑問が残る。

高澤：どうして論文が出ないのかについてももう少しリサーチする余地があるのでは？ ODP 時代には TAMU が細かく成果を報告せよとの連絡が来ていた。（TAMU から報告せよというリクエストは来ている。坂本）

日野：お金じゃない面については引き続き考えていく必要がある。はじめのうちは論文を書くことを Encourage するという意思表示を行い、最終的には成果を出さない人にはペナルティーを考えていく必要がある。Web of Science に登録された国際誌への掲載は徹底すべき。方針としては原案でよい。

松本：Encouragement が目標になる。成果が出ない原因が分からない（英文にできない？結果が出ていない？）。

坂本：この制度についてはよいと思う。申請時期については？（審査と予算執行の時期的な兼ね合いから 12 月に締め切りを持ってきた。3 年間持ち越しなので、申請時期の問題はあまり無い。川幡）筆頭著者と共著者は差をつける必要があると思う。（共著でもお金がもらえるならば頑張ろうと思う人がいるのかと思うので、筆頭をはずします。川幡）

安間：条件が細かすぎると思う。例えば 6）の領収書を提出することまでは必要ないのでは？全研究

期間中を通じて J-DESC 会員に所属していたことの証明もいらない。(規定としてあるのはかまわないが、申請者に負担になるような書類の作成まではいらない。日野)

阿波根：規定が細かすぎる。内規としては大丈夫だが、外に出す場合は、もう少し簡潔に書くのがよい。

北村：静岡大学でこのような支援は既にやっている。英文校閲、別刷り代金含めて 5 万円。これは、博士課程の院生にどのようにお金を使うのかということに関して、均等に分けるのではなく、論文を書くことに関して Encourage するという意味がある。Web of Science に載っている国際誌というのは、日本の学会等が発行しているものも含む？(登録されていれば含みます。川幡)

- ・ 資料の文章を練り直し、3 月にもう一度議論を行う。
- ・ 総会においても会員に説明を行う。
- ・ 文科省から成果について調査の依頼が来ているため、成果を報告してほしい旨を伝える。

● SPC Alternate 委員選出報告

資料 13 に基づき、SPC の Alternate 委員の選出の報告がなされ、承認された。

- ・ 佐藤博明委員→川幡穂高氏
- ・ 大河内直彦委員→北里 洋氏
- ・ 丸山明彦委員→山本啓之氏

● 賛助会員勧誘状況報告

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 帝国石油が入会していないのはなぜかといつも聞かれる
- ・ 帝国石油は学問的な話から入るよりは別の方向から攻めた方がよい
- ・ 今後 GODI からの紹介で日本郵船を勧誘する予定
- ・ 東工大に入会依頼を行う

● 次回開催日程について

3 月 31 日 (月) 13:30 より (時間がいつもより早いので注意)